

情報連絡員報告総括表（令和3年12月分）

三重県中小企業団体中央会
 連絡員総数 40名
 回答数 40名（100%）

業界の景気動向（前年同月比）

		売上高			在庫数量			販売価格			取引条件			収益状況			資金繰り			設備操業度			雇用人員 <small>（臨時・パートを含む）</small>			業界景況								
		増加	不変	減少	増加	不変	減少	上昇	不変	悪化	好転	不変	悪化	好転	不変	悪化	好転	不変	悪化	上昇	不変	悪化	増加	不変	減少	好転	不変	悪化						
製 造 業	食料品	1	3		1	3		1	3			3	1		2	2		3	1		4			4			3	1						
	繊維工業	1	1	1		3			2	1		2	1	1	1	1	1	1	1		3			2	1	1	1	1						
	木材・木製品	1					1	1			1				1			1		1				1		1								
	紙・紙加工品		1	1		1	1		2			2			1	1		2			1	1		2			1	1						
	印刷		1		1				1			1				1		1			1			1			1							
	化学・ゴム																																	
	窯業・土石製品	1	2			3			3			3			2	1		3		1	2			3			3							
	鉄鋼・金属	1				1			1			1			1			1		1			1			1								
	一般機器		2	1	2	1		2	1			3			3			3			3			3			2	1						
	電気機器			1			1			1		1				1			1			1		1				1						
	輸送機器			1			1		1				1			1			1			1		1			1							
その他																																		
小計		5	10	5	4	12	4	4	14	2	1	16	3	1	11	8	1	15	4	3	14	3	1	18	1	3	12	5						
非 製 造 業	卸売業		2			2		2				2			1	1		2		X				2			1	1						
	小売業	1	2	3		5	1	2	4			1	5		1	5		1	5								6			1	5			
	商店街	1					1		1			1			1			1									1			1				
	サービス業		4	1	X				5			5			4	1		4	1								5			4	1			
	建設業	1	3						1	3		1	2	1	1	2	1	1	3									4			1	2	1	
	運輸業	1										1			1		1						1							1			1	
	その他	1										1			1			1						1						1			1	
小計		5	11	4					7	2	5	15		1	13	6	2	10	8	2	12	6					20			3	9	8		
合計		10	21	9				4	19	6	9	29	2	2	29	9	3	21	16	3	27	10	3	14	3	1	38	1	6	21	13			

最近の主要指標の前年同月比D I の推移

(令和2年12月～令和3年12月)

三重県中小企業団体中央会

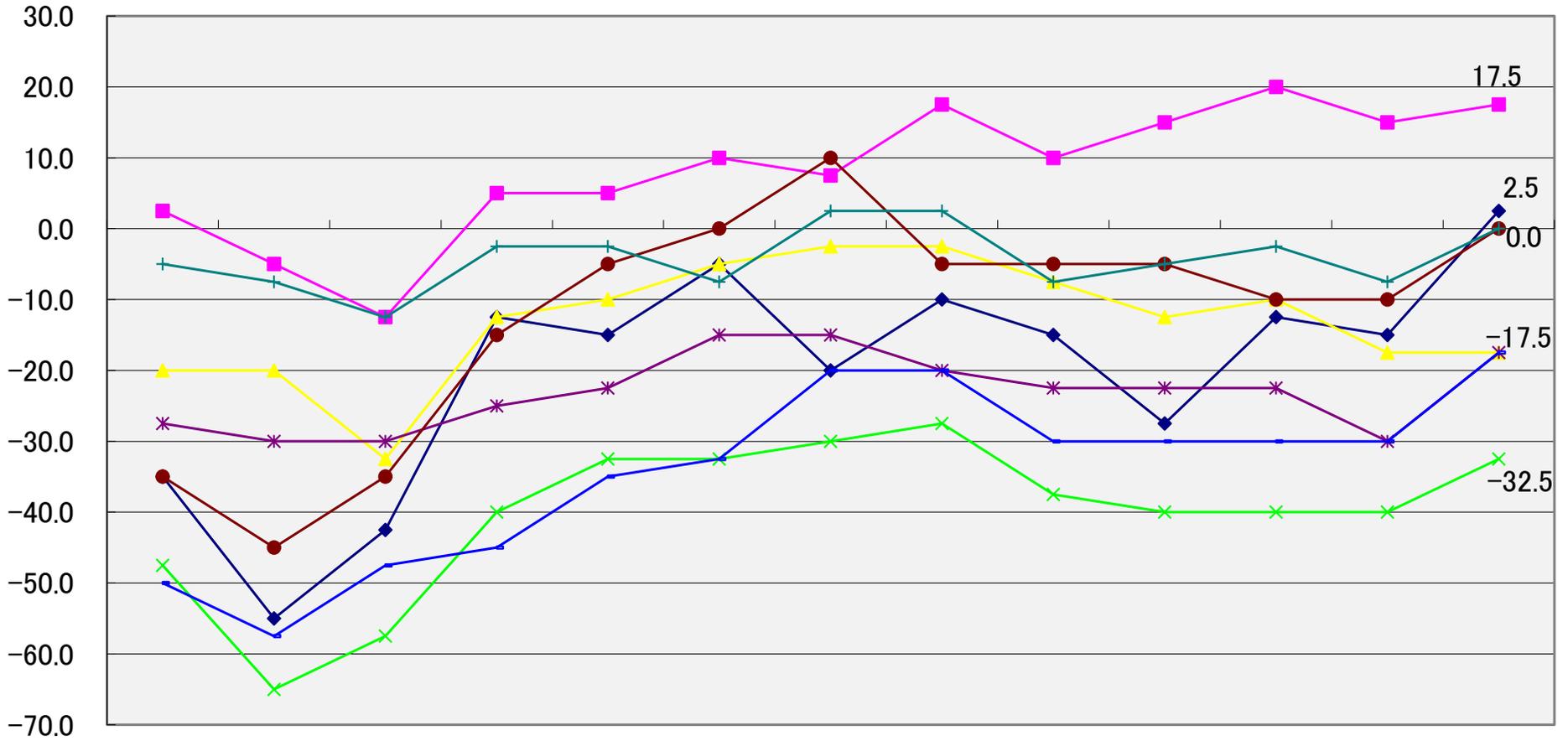
連絡員総数 40 名

	2/12月	3/1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	増減
売上高	-35.0	-55.0	-42.5	-12.5	-15.0	-5.0	-20.0	-10.0	-15.0	-27.5	-12.5	-15.0	2.5	17.5
販売価格	2.5	-5.0	-12.5	5.0	5.0	10.0	7.5	17.5	10.0	15.0	20.0	15.0	17.5	2.5
取引条件	-20.0	-20.0	-32.5	-12.5	-10.0	-5.0	-2.5	-2.5	-7.5	-12.5	-10.0	-17.5	-17.5	0.0
収益状況	-47.5	-65.0	-57.5	-40.0	-32.5	-32.5	-30.0	-27.5	-37.5	-40.0	-40.0	-40.0	-32.5	7.5
資金繰り	-27.5	-30.0	-30.0	-25.0	-22.5	-15.0	-15.0	-20.0	-22.5	-22.5	-22.5	-30.0	-17.5	12.5
設備操業度	-35.0	-45.0	-35.0	-15.0	-5.0	0.0	10.0	-5.0	-5.0	-5.0	-10.0	-10.0	0.0	10.0
雇用人員	-5.0	-7.5	-12.5	-2.5	-2.5	-7.5	2.5	2.5	-7.5	-5.0	-2.5	-7.5	0.0	7.5
業界景況	-50.0	-57.5	-47.5	-45.0	-35.0	-32.5	-20.0	-20.0	-30.0	-30.0	-30.0	-30.0	-17.5	12.5

(注1) 「D I」はデフレーション・インデックスの略で「増加」・「好転」したとする
企業割合から、「減少」・「悪化」したとする企業割合を差し引いた値である。

最近の主要指標の前年同月比DIの推移

2/12月 3/1月 2月 3月 4月 5月 6月 7月 8月 9月 10月 11月 12月



◆ 売上高
 ■ 販売価格
 ▲ 取引条件
 × 収益状況
 ✱ 資金繰り
 ● 設備操業度
 + 雇用人員
 — 業界景況

情報連絡一覧票

集計上の分類業種	具体的な業種 (産業分類細分類相当)	組合等及び組合員の業況等(景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点)
食料品	漬物	原料用野菜は8月～9月にかけての長雨と日照不足の影響により生育不良となり、年末の漬物需要の増加にもかかわらず、原料生産が不足している。生産者の高齢化と後継者不足により、一部業者の中では漬物原料野菜の供給不足は続いている。また、販売状況においても、コロナウイルスの影響により、お土産物の漬物の販売及び外食産業での需要の減少が続いている。一方、年末年始の需要の増加に対応するため、生産量を増やしている。
	醤油味噌	原材料、資材、燃料、運賃等の高騰により、商品値上げへの転嫁を待ち望んでいたが、ようやく大手が「2月15日から」、「3月から」商品の値上げを行うと発表したため、各社も値上げの状況となった。年末により、動きも少し良くなったようである。
	豆腐	少しずつではあるが、外食産業への食材としての、豆腐油揚げの納品は回復しつつあるが、この先コロナの第6波による影響が心配される。
	製麺	12月17日に半年ぶりとなる「地域特産めん研究部会」を開催した。また、インボイス制度についての勉強会をしていた。組合員企業の皆様より現況報告もいただいた。10月より「みえ得トラベル」があり、お客様がかなり動き出している。また、第6波に備えて観光客は7割～8割程度である。売上については、量販店は98%位、大手量販店は100%以上の推移となっている。伊勢神宮方面のお客様は9割程度である。
繊維工業	組紐	まだまだ業績回復とは言い難いが、10、11、12月は回復傾向にあるものの、今後、オミクロン等の新型コロナウイルスによる感染拡大による不安が続く。
	衣料縫製	大変厳しい状況の中、今年も頑張っってやっていきたい。
	テントシート	仕入商品、材料等の値上げが行われてきた。
木材・木製品	木材	ウッドショックによる影響は落ち着いてきた感はあるが、依然として、国産材に対する需要は旺盛で、前年同月比では原木、製品共に高値で推移している。
紙・紙加工品	紙器段ボール	今月も大きな動きはなく例年通りの売上推移である。ただ、各大手製紙会社が段ボール原紙の値上げをプレスリリースした。早いところは令和4年2月1日から10%の値上げを公表した。その後、段ボールシート、製品の値上げを進めるパターンになる。我々段ボールメーカーは段ボールシートの値上げを受けて、各ユーザーに製品値上げのお願いを進めることになる。どこまで値上げ分を交渉できるかで、今後の業績に影響が大きく出る。
	古紙	12月期の仕入れ量は：段ボール・約95±2%、新聞、チラシ・約93±6%、雑誌・雑がみ、その他を合わせて約90±8%と思う。師走に入り2回の積雪で、特に年末の天候は消費活動や排出行動等に大きく影響したように思う。加えて、10代～50代の会社員の給与や賞与が前年並み又は以下である方が多かったように思われ、大幅な消費活動に結びつかず、段ボール等の排出が少なかったのかも知れない。そして、最終週に飲食店へ会食に行ってきた。かなりの人出であったが、感染対策で席数が2割から4割程度減らしてあり、前年より荷動きが悪い事が実感できた。製紙会社は原料となる古紙が予定通りに入荷しないこともあり、生産調整をしているようである。古紙不足の原因には輸入商品の入荷が少なく、廃棄される梱包資材の発生が少ないのも原因のように思える。積雪で事故が多発したところもあり、対応に追われているようである。やはり、廃プラや家電等の不法投棄や古紙等の持去りも多発し、悔しく悲しい対応を行っている。
印刷	印刷	感光材料等の値上げに続き年明けからは、いよいよインキそして紙も値上げになる。また、コロナ禍の対応からこれまで以上にペーパーレス化が進んでいることもあり、需要が停滞する中で競争が激しくなり、ますます価格転嫁しにくくなるのが懸念される。
窯業・土石製品	コンクリート	地域的にはバラバラであるが、特に北勢地域での需要が多い状況が続いている。
	伊賀焼	緩やかに業況は回復しつつあるように思える。地方への個展等のイベントも次第に増えてきているので、忙しくしている業者も増えてきている。しかしながら、今後またコロナウイルス感染拡大が起きてくると、先が見通せなくなる心配が出てくる。
鉄鋼・金属	鍍金	当業界の生産額は11月と比べ、やや増加気味であった。自動車業界の年末の稼働が長く、したがって自動車関連部品は増加、電気関連部品、建築関連部品、ガス関連部品は横ばいの状態であった。半導体関連部品は横ばい状況である。コロナ禍で技能実習生、特定技能者の入国が遅れていたが、入国可能となる情報もあり改善できると思われる。
	四日市	三重県の有効求人倍率が1.26倍となって、雇用人員の増加は未だ見られない。現状の人員で各社頑張っている。2021年もコロナで明け、終盤にはコロナの収まりを見せたものの、変異株のオミクロン株がヨーロッパやアメリカで拡がり、我が国への感染が懸念されている。

情報連絡一覧票

集計上の分類業種	具体的な業種 (産業分類細分類相当)	組合等及び組合員の業況等(景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点)	
一般機器	津市	材料の納入は11月と変わらず、厳しい状況が続いている。また、設備のメンテナンス等に必要な材料以外の部品も一部で納入が遅延している。売上に関しては、部品によって増減はあるものの全体では、昨年と同程度であり、悪くはない。ただ、材料の納品だけが心配である。	
	伊勢	政府のコロナ禍に対応した大規模な財政政策や緩和的な金融政策に期待している。しかし、行動制限で順調に減少していた新型コロナウイルス感染者数も最近では少し増加傾向にあり、新しいオミクロン株の感染者も発生してきた。じわじわと感染者数が再拡大してきていて、一旦緩和の方向が示された外国人の新規入国ビザも再度延長されている。今後どうなるかが心配である。	
	電気機器	鳥羽	期末近くなり、少し受発注に動きが見られるが、まだまだ悪い状態である。主材料、副資材等が軒並みの値上がりが始まり、販売価格に転嫁できず、業績の悪化が心配である。
	輸送機器	鈴鹿	自動車部品の需要は相変わらず変動が大きく、生産計画の調整が一苦労である。助成金をあてにして設備投資をしたものの、操作パネルに使用する電子部品が入手できないため納期(助成金の指示する締切日)までに完成させることができないという問題が起こっている。
小売業	青果	野菜前半：全体的に入荷量は昨年並みながら、玉ねぎ、じゃがいも以外は安く、特にキャベツ、白菜、大根は豊作で安い。きゅうり、レタス、白ネギも例年より安い。野菜後半：一部で年末需要に向けて引き合いが増え始めたが、全体的には相場は落ち着いている。白菜、大根は安く、ほうれん草、小松菜も安定している。きのこ類については、椎茸の価格は上がっているが、しめじ、エノキ茸は安い。 果物前半：みかんは県内産を中心に和歌山、愛知、静岡産の早生品種が終盤になり、産地で価格にバラツキがあるが、年末に向けて高くなりそうである。りんごは長野産、青森産のサンふじが順調に入荷している。いちごはやや安いが、年末は高くなる。果物後半：みかんは各産地とも年末年始の需要が見込まれ、価格が上がる。りんごのサンふじも高くなっている。いちごも寒さが続き、高値が続いている。	
	自転車	11月中旬より、2022年モデル工業メーカーの通学自転車が入荷し、一部ショップは、12月中旬にかけ、展示発表を始めた。昨年と同商品が5,000円以上値上げとなり、その要因は国内輸送費、海上運賃の上昇、中国での原材料価格の高騰、それらに起因する部品、副資材等の調達コストの上昇が続いているためのもので、価格維持が極めて困難な状況となっている。また、商業メーカーにおいては、2022年版カタログが10月初めに発表したにも関わらず、12月21日には、全商品2,000円以上アップしたものに改定する等、通年には見られなかった状況が続いている。年明けには通学車展示会を行う予定の店もあるようである。	
	電器	12月の販売も大変苦戦した。売上については、単月で前年から約1割以上下落とした。4~12月の累計でも同じような状況である。特に主力商品のエアコンと4K8Kテレビの販売の苦戦が続いている。今月は冷蔵庫が前年を大幅に上回り好調で、続いて洗濯機も好調であった。ただ、エアコン、テレビの落ち込みをカバーすることは出来なかった。また、半導体の不足により、多くの商品が影響を受けているが、中でも情報通信関連の電話・FAX器は壊滅状況が続いている。ドアホンの一部も非常に厳しい状況であり、4K8Kテレビも即納が困難な状況である。テレワーク・巣ごもりと新たな環境にも敏感に対応してきたが、耐久品である主力家電商品は、買替えが基本なので、市況が好転しないと、販売が毎月厳しい状況が続く。ただ、リフォームの取り組み店は、今後期待できそうである。11月末から12月にかけて、多くの店舗が個展催事を実施した。お客様の来場は前年並み、販売は前年を少し上回った状況である。催事に工夫と手間をかける店とそうでない店の販売格差が更に大きくなりつつある。特に今回の個展催事は、店舗間の格差が大きく出ている。在庫は実需とのタイム差があるが、全体としては横這いの状況であり、商品により微減である。コロナ禍の中今後の見通しは、非常に厳しい状況が予想される。しかし、電器店は店主の高齢化による販売ダウンが課題で、更に後継者問題が大きな問題となっている。	

非

情報連絡一覧票

集計上の分類業種	具体的な業種 (産業分類細分類相当)	組合等及び組合員の業況等 (景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点)
製 造 業	石油	半導体不足で自動車製造工場の生産停止のニュースが流れている。油業界においても三重県だけでなく、全国的にアドブルー(尿素SCRシステムにおいて還元剤として用いられる高品位尿素水)の入手困難が続き、購入した商品を定価の数倍で売る、いわゆる転売屋が横行しているという。アドブルーとはディーゼルエンジンの排ガスをキレイにするための必要不可欠な高品位尿素水で、常温で保存できる無色・無臭の液体である。ディーゼルエンジンは大型トラックやバスなどに多く採用されているが、有害な物質を含む排出ガスが大気汚染につながることから、排出ガス規制がされるようになり、そこで有害な排出ガスを浄化する「尿素SCRシステム」が採用されるようになった。このアドブルーは、原料となる尿素を中国が10月中旬に輸出規制した影響で、国内の生産が落ち込み、需給が逼迫しており、年明け後についても「いつ手元に届くかはっきりしない」模様であり、日本の物流に大きく関係する問題である。
	スポーツ	コロナに振り回された1年であった。秋までは全くスポーツのできる状態ではなく、山用品やサイクリング用品は良かったようであるが、いずれも大型スポーツ店の範疇で、我々組合員の営業品目ではなく、オリンピックに出場した選手の頑張りですスポーツ熱は上がったが、売上増の影響は出ず、ネットを中心に営業していた組合員の店が手を上げてしまった。組合として助ける事もできず、残念な思いをした。
商店街	熊野市	歳末に開催した朝市イベントは、市の助成により先月よりスタートした1,000円で1,200円分の商品券が使える「当日限定とくとく商品券」が好評で歳末という事も重なり、売り切れの出た店舗が多かった。今後も継続して割引商品券の販売は継続していく予定である。
サー ビス 業	旅館	コロナ感染も収まりつつあり、宿泊客も戻ってきてはいるが、新たな変異株による感染拡大に対する不安からか予約は伸びなかったが、年末年始は通年同様早くから予約が入り、満館になっていた施設が多かったようである。しかし、忘年会等の日帰り利用が全くなかった事が売上減の要因でもあった。12月全体では、対前年110%、対前々年80%位の業績であった。
	測量	官庁からの受注量は例年並みである。 新入社員の確保に関して、新たに新機材を導入するには、先行きの見えない業種なだけに難しい。
	警備	例年のようにこの時期は公共工事の発注増で仕事はいくらでもあるが、従業員不足が悩みである。
建 設 業	内装工事業	12月も前月に続き、わずかながら対前年同月比でプラスとなった。しかしながら、年明けから年度末までコロナの影響は続くと思われる。
	水道工事業 (亀山)	コロナの終息が見えない中、引き続き資材の入手が困難である。また、今後の先行きも不透明で、この状況がいつまで続くのかわからない。受注の引き合いがあり、仕事はあるものの、不安定な状況である。資材単価についても上昇が続いており、安定する時期がわからない状況が年明けも続くと思われる。
運 輸 業	トラック	原油価格は依然高騰しているものの、先月に比べ軽油価格はリッター当たり下落した。電子部品、デバイス関連については、先月一旦減少していたが、今月に入り増加に転じたため、関連する輸送量も増加した。自動車関連については、東南アジアからの部品調達難等からトヨタ自動車、本田技研等のメーカーが工場停止等の生産調整を行ったことから、輸送についても減少した。スーパー、小売関連については、年末商戦により好調であったため、輸送についても先月に比べ、大幅に増加した。

行政庁・中央会に対する要望事項

集計上の分類業種	具体的な業種	行政庁・中央会に対する要望事項、または関心のある事項、意見等
食料品	製麺	まだまだ予断を許さない状況であるが、前向きに取り組んでいく。また新しい情報があれば、教えてほしい。
一般機器	四日市	18歳以下に10万円の支給、アベノマスクの処分等、政府の対策には理解に苦しむばかりである。外交や国の進むべき技術立国対策に取り組んでもらいたい。
小 売	スポーツ	少額随意契約の活用と適用限度額の大幅な引き上げの実現を希望している。
サー ビス 業	旅館	「Go To トラベル」はコロナによる影響から脱却するための手段として利用する。 ①春休みも適用対象とする。②割引率で割引上限額の変更。③予算残は各都道府県に積み増しする。
	測量	後継人を育てていきたい。組合員各位の緩やかな成長を望んでいる。